

「誰が神の愛から」

ローマの信徒への手紙

第8章 31節～39節

説教 岡村 恒 牧師

「わたしは確信しています。…どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない」(38節～39節)。聖書の中で最も美しい1章とも言われる、ローマの信徒への手紙第8章の前半部分をお読みしました。聖書全体が示す福音を受け取った者の口からあふれ出てくる信仰の言葉が響いています。

パウロは、畳みかけるように問います。「だれがわたしたちに敵対できますか。…だれが神に選ばれた者たちを訴えるでしょう。…だれがわたしたちを罪に定めることができますか。…だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますか。」(31節～35節)こう言うパウロ自身は、何度も敵に囲まれ、訴えられ、罪に定められ、殺されかけた人物です。しかし、自分が経験してきた日々を振り返りながら、本当の慰めと希望とを指し示しています。

宗教改革期の文書、『ハイデルベルク信仰問答』の問1の問いはこう尋ねます。「生きている時も、死ぬ時も、あなたのただ一つの慰めは、何ですか？」答え：「わたしが、身も魂も、生きている時も、死ぬ時も、わたしのものではなく、わたしの真実なる救い主イエス・キリストのものであることであります。」私は主イエスのものだ、この信仰の一点が、私たちの人生の土台です。本当の慰めについて考えていくと、聖書が語る《救い》ということがはっきりしてきます。

「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。」(31節)と聖書は語ります。最後の審判の場面で、私たちの全生涯の全てをご存知の方が、わたしたちの味方として傍らに立ち、弁護して下さいます。神は、御子イエス・キリストを与えて、あり得ない犠牲を払って私たちの味方になって下さいました。だから、どんなものも、私の敵となることなどできないのです。

パウロは、牢屋に入れられ、山賊に襲われ、難破しました。何かを確信できるような理由などなかったはずですが。しかしこの確信は、主イエスを信じるすべての者に与えられるものです。

「死んだ方、否、むしろ、復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成して下さいます。」(34節)という御言葉は、死でさえも私たちが神の愛から引き離すことなどできないという事実を明らかにしています。これが、聖書

が語る確かな救いです。ここには曖昧さはありません。明確な救いの約束が響いています。

私たちは、孤独に滅びていくような存在ではありません。主イエス・キリストに堅く結びつけられて生きる者です。キリストのものとなるというのは、何にも動かされることのない確かな存在とされるということです。その根拠はただキリストにあります。よみがえったキリストの《とりなし》が、私たちへの死の宣告、本来決定して変わるはずのない滅びの定めを打破してしまったのです。

讃美歌21-246番の歌詞は、ディートリッヒ・ボンハッフアー(Dietrich Bonhoeffer)というドイツの牧師が、死の直前に書いた手紙に曲をつけて、ドイツでは年末とともに春の訪れを覚える3月にもよく歌われるものです。「主の善き力に守られて」という題で日本語でも歌われています。

**Von guten Mächten wunderbar geborgen,
Erwarten wir getrost, was kommen mag.
Gott ist bei uns am Abend und am Morgen
Und ganz gewiss an jedem neuen Tag.**

神の善き力に、誠実に、静かに守られて、
何が来ようとも、励まされ待ち受けよう！
夜も朝も、神は共にいて下さる。
間違い無く、毎日新しく訪れる日ごとに。

神の救いの力が、私たちを包み込んでいます。死を滅ぼして下さったキリストの勝利が、私たちの救いの根拠です。神の憐れみだけが、私たちを慰め、救い、解放します。私たちを救いに招き、信仰を与え、神の子として下さるのは、ただ神の善い力、強い御力によるのです。

「わたしは確信しています。」たとえば自分自身の不信仰も、疑いや迷いも、病気も、年老いて何も分からず祈ることさえできなくなっても、どんなものにも、私たちを神の御力から引き離すことなどできないのです。

新しい年が来るたびに、この讃美歌によって慰められてきた多くの方が、終わりの日を見据えながら、確信をもって歩んできました。やがて全てのものが終わりを迎える日、私たちの確信が事実となります。「どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない」(38節～39節)のです。

(記 岡村 恒)